

令和6年度 学校経営計画に基づく各分掌の目標・計画

岡山県立岡山高等学校

重点目標	分掌	具体的な方策	達成基準	中間達成状況	評価	年度末達成状況	評価
(1) 生徒の知識・技能や学習習慣の定着に繋がる効果的な指導方法の確立を目指して、教員の授業力・指導力の向上に取り組む。 ○生徒が第一に希望する進路の実現 ○年間計画を立てて取り組む教員の授業力向上 ○ICT・遠隔教育システム活用の推進	教務課	○勝山高校のDXを進める ・大型ディスプレイを用いて職員室の連絡用ホワイトボードをデジタル化し、情報を整理するとともに、記入、訂正、消去等の手間をなくす。 ・新たな保護者連絡システム「さくら連絡網」を導入する。実際に運用する中で、よりよい運用方法や運用規定を確立する。 ・指導要録が電子化されることを受け、効率のよい入力方法を研究し、入力のためのマニュアルを整備することで、教員の負担を減らす。	3つの具体的な方策のうち、教育活動の効率化や成果の向上が見られ、概ね満足できるレベルで達成できているものがある。 A: 3つ B: 2つ C: 1つ以下	・1学期中に職員室に大型ディスプレイを導入し、連絡用ホワイトボードをデジタル化した。定期的に書き直していた当番等の情報が自動更新になり担当者の負担軽減につながった。特に「重要なお知らせ」が目につきやすく好評である。【達成】 ・年度当初から「さくら連絡網」を導入し運用している。保護者あて文書をHPに掲載し、連絡網を利用してリンクを送ることや、生徒にも連絡先を登録させて利用するなど、運用方法も確立できている。【達成】 ・1学期に作成される3年次生の調査書に合わせて、要録の入力方法の研究を始めている。2学期には、年度末に向けてマニュアルを整えていく。	B	・1学期中に職員室に導入した大型ディスプレイは、順調に運用できている。会議予定欄について、会議当日になると目立つように表示されるなど、細かい仕様を変更し、より便利になるよう改善が続いている。【達成】 ・1学期中に導入した「さくら連絡網」は、順調に運用できている。1月には、保護者アドレスと生徒アドレスを区別して登録できるようにシステムの仕様が変更された。3学期には、来年度に向けて仕様変更に対応する準備を進める。【達成】 ・指導要録の電子化に対応するために、入力や出力方法についてのマニュアルを整えた。2月の職員会議で先生方へ周知し、効率よく指導要録を作成していく。【達成】	A
	進路課	○学習習慣の確立 ・学習実態調査の結果を生徒にフィードバックするとともに、教科・学年で分析を行い、改善に向けての取組について共通理解を図る機会を提供する。 ・学習セミナーを年2回以上行い、生徒が学習に集中できる場と機会を提供する。	・平日の家庭学習時間 1年: 2時間以上が5割 2年: 2時間30分以上が5割 3年: 3時間30分以上が5割 ・学習の質に対する生徒の自己評価について、肯定的な評価が7割以上。 ・学習セミナーを年2回以上開催し、それぞれ6割以上の生徒が参加する。	○学習実態調査4月→6月の結果は以下の通りであった。4月から6月にかけて、各年次とも学習時間は伸びたが、目標には届いていない。意識付けを継続的にしている。 1年 32% → 45% 2年 36% → 39% 3年 13% → 22% ○「学習の質」生徒の自己評価については、ABCDの4段階でおこなった。6月調査の結果は以下の通り。各年次ともAとBの合計が7割以上である。今後も質の向上を意識するよう、呼びかけを継続する。 1年 A 10%、B 71%、C 15%、D 4% 2年 A 10%、B 66%、C 20%、D 4% 3年 A 26%、B 64%、C 8%、D 2% ○3年生対象の夏季セミナーを8月に学校で実施し、71名(69.6%)が参加した。本年度は午後から東進の特別講座に参加する生徒もいて(3年生は23名が参加)、有意義な時間を過ごした生徒が多かった。	B	○学習実態調査4月→6月→9月→11月の結果は以下の通りであった。情報や面接・小論文対策の時間も学習時間として計上している。3年次については、進路決定者が増加する11月については調査をしていない。各年次とも、年度当初に比べると2学期にかけて伸びがみられるが、50%は突破できなかった。調査後に進路だりを用いて担任や教科担当から意識向上を呼び掛けている。地道な意識づけを継続する。 1年 32% → 45% → 40% → 32% 2年 36% → 39% → 41% → 41% 3年 13% → 22% → 34% ○「学習の質」生徒の自己評価については、ABCDの4段階でおこなった。11月調査の結果は以下の通り。各年次ともAとBの合計が7割以上となった。 1年 A 12%、B 67%、C 18%、D 3% 2年 A 14%、B 64%、C 20%、D 2% 3年 A 33%、B 54%、C 10%、D 3% ○3年生対象の夏季セミナー(8月)は、71名(69.6%)が参加した。 ○1・2年次生対象の春季セミナー(3月下旬)は、現在調査中である。昨年度は、1・2年次生150名(71.8%)が参加した。	B
		○入試に関する情報共有ときめ細かい学力分析、就職志望者に対する情報提供と指導 ・大学入学共通テストなど入試に関する内容や、推薦指導・教科指導などの効果的な方策について情報を共有できる機会を設定する。 ・就職志望者に対する情報提供を行い、適切な企業選択が行えるようにする。	・外部模試の結果(ベネッセGTZ)による分析における累積人数 S3(難関大レベル): 1名 A2(中堅国公立レベル): 5名 B2(国公立大レベル): 30名 ・就職志望者の内定率100%。	○7月進研記述の3教科総合(3年は5教科総合)の結果は次の通りであった。 1年 S3: 1名、A2: 1名、B2: 30名 2年 S3: 1名、A2: 2名、B2: 32名 3年 S3: 1名、A2: 3名、B2: 14名 各年次ともA2以上の層が薄く、中位の生徒を引き上げる指導が必要。習熟度に応じた授業や個別添削等を行っている。また、1・2年はB2以上が30名を超えたが、3年はB2以上の人数が少く苦戦している。秋に力を伸ばすことができるよう、授業中心の指導を続けるとともに、平日補習や土曜日学習など様々な場での取り組みも継続する。 ○一般企業の就職試験が9月半ばから始まる。	B	○11月進研記述模試の5教科総合(1年は3教科総合)の結果は、次の通りであった。 1年 S3: 1名、A2: 1名、B2: 24名 2年 S3: 0名、A2: 1名、B2: 27名 3年 S3: 1名、A2: 1名、B2: 7名 目標達成は1年と3年のS3層のみであった。2年はA3層に5名、B3層に13名、1年はB3層に17名など、すぐ下の層に属する生徒が多々、この層の生徒を引き上げたい。習熟度別授業・個別添削・土曜日学習等を継続していく。 ○年度当初からの就職志望者の内定率は100%であった。	B
	1年次団	○個々の能力や適性に応じた進路目標を持させるために、面談を充実させ進路意識を高めさせる。 ○進路実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を身に付けるために、具体的な目標を早期に設定させる。そのためにさまざまな社会体験の機会を設け、実行させ、記録させる。	○進路に関するアンケート「学習に対する自分の努力」「自分自身の進路研究」の項目の「満足・やや満足」の計90%以上 ○担任・副担任・教科担任・年次主任による面談を年4回以上実施 ○オープンキャンパス・ボランティア活動への参加、校外活動などを年度内に行った生徒の割合70%	○9月中旬までに各クラスの担任・副担任で3～4回の面談を実施。学校生活に関することから、学習習慣、進路実現にむけてなど個々に応じた面談を実施した。現在は文理・科目選択についての面談を実施し、ミスマッチがないように本人の意思を確認している。ポテンティア活動、校外活動への積極的な参加も継続して呼びかけていく。 ○担任・副担任・教科担任・年次主任による面談は2学期に実施予定。 ○夏休み課題としてオープンキャンパスへの参加を課し、91%(98名)が参加。実際に大学・専門学校等に出かけ、体験を通して、進路意識が高まった。	B	○進路に関するアンケートの「学習に対する自分の努力」の項目に「満足・やや満足」と答えた生徒の割合は83%、「自分自身の進路研究」の項目に「満足・やや満足」と答えた生徒の割合は85.2%。学習・進路研究についてより向上するよう様々な形で声かけ・しかけを施してきている。 ○担任・副担任・教科担任による面談はそれぞれ3～4回実施(入学当初の面談、文理・科目選択に関する面談、教科面談など)。2学期期末考査後より学年末面談を開始し、年度末までには全員の面談を実施する予定。 ○進路実現のための体験学習、オープンキャンパス参加は91%(夏休み終了時点)職業インタビューなどを行った生徒の割合に関する調査は2月のeポートフォリオ記入により把握する予定。夢見プロジェクトの探究活動を通して、職業インタビュー等を行った、外部のボランティア活動に参加したりなど、進路研究を行うことができた。探究活動や進路学習には受身の姿勢の生徒に対して働きかけをしていきたい。	B
2年次団		○個々の能力や適性に応じた明確な進路目標を持させるために、面談を充実させる。(教科面談を含む、担任団面談年間5回以上) ○進路実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を身につけるためにChromebookと夢手帳の活用を推進し、家庭学習習慣の定着を図る。	○進路に関するアンケート「進路目標が明確になった」の項目の「なった・ややなかった」の計90%以上 ○学習実態調査の家庭学習時間の週合計が21時間以上の生徒70%以上	○9月中旬までに各クラスの担任・副担任で3～4回の面談を実施し、進路情報の提供をしたり進路実現に向けての具体的な方針を確認したりした。教科面談は数学科を中心に各教科個別に行っている。 ○9月実施の学習実態調査において、家庭学習時間の週合計が21時間以上の生徒27.5%、平日学習時間の平均は139.6分、休日の平均は173.6分。一方スマートフォンの平日使用時間の平均は79.7分、休日の平均は109.2分。スマートフォンが学習への深刻な影響を与えていることがわかる。	B	○進路に関するアンケートにおいて「進路目標が明確になったか」の項目に「なった・ややなかった」と回答した生徒の割合は66.7%。残りの33.3%の生徒の自由記述の中に、進路講演会や面談等を経て本格的に進路を考えるようになり、迷いが生じている様子がうかがわれる。 ○11月実施の学習実態調査によると、家庭学習時間の週合計が21時間以上の生徒34.7%。一方スマートフォンの平日使用時間の平均は66.7分、休日の平均は112.2分。9月よりも数値が改善しているものの、依然としてスマートフォンが学習時間を奪う傾向がある。しかしながら、11月実施の進研模試の結果を見ると、5教科総合の偏差値50以上の生徒の人数は過去3年で一番多く、学習の効率は良いと考えられる。	B
	3年団	○個々の能力や適性に応じた進路希望を設定させ、その実現に向けて面談を充実させる。(年次主任面談1回以上、担任面談5回以上) ○一希望の進路実現に向けて、情報を収集し計画を明確化させるために夢手帳を活用させる。家庭学習の質・量を向上させる。	○進路に関するアンケート「勝山高校の進路指導について」の項目の「満足・やや満足」の計80%以上 ○第一志望合格率60%以上	○アンケートは未実施(年度末実施予定)であるが、一学期中に各クラスの担任団で3～5回の面談を実施し、進路情報の提供をしたり進路実現の方策についての共通理解を得たりした。年次主任面談は2学期に実施予定。 ○面談などを通じて適切な進路指導が来ていると判断する。現在、総合型選抜の出願、そして学校推薦型選抜の推薦願提出時期であるが、概ね本人の実力と志望とのバランスがとれた戦い方が出来そうである。一般入試に絞っている生徒の学習意欲が維持されるよう、環境を整えていきたい。	B	○進路に関するアンケート「勝山高校の進路指導について」の項目については「満足・やや満足」が98%(84名が回答、63名が「満足」、19名が「やや満足」)であり、殆どの生徒が本校の進路指導に満足している様子が見える。特に「助けてもらえた」「支えてくれた」等、担任団、学年団は当然だが、学校全体でのフォローが心強かった、とのコメントが多く、「チーム勝山」としての進路指導体制が生徒の側にも浸透していることが伺えた。担任面談は充実していたが、年次主任面談は実施できなかった(推薦指導等、時間的余裕がなかった) ○「第一志望合格率」に関しては、国公立の総合型選抜では苦戦を強いられながら、学校推薦型でリベンジを果たす者が複数名出るなど善戦したのではないかと、今後の一般入試での戦いに期待する。	B

令和6年度 学校経営計画に基づく各分掌の目標・計画

岡山県立勝山高等学校

重点目標	分掌	具体的な方策	達成基準	中間達成状況	評価	年度末達成状況	評価
(2)地域の進学拠点校としての魅力ある高等学校づくりを図るため、地域・小中学校等との連携・協働による教育の推進に取り組む。 ○小学生・中学生とその保護者地域の方々や関係機関への教育活動広報の充実 ○地域をフィールドにしたPBLの充実 ○小中高大連携の強化充実と地域人材の活用 ○ボランティア活動の充実	教務課	○勝山高校説明会の充実 毎年10月に行っている勝山高校説明会で、部活動体験を実施する。部活動体験をきっかけに、中学3年生だけでなく中学1・2年生にもターゲットを広げ、勝山高校の魅力を知ってもらうとともに、本校で部活動することに期待して進学を希望する生徒を増やすことを目指す。	A: 多少の改善点はあるものの、参加者からのフィードバックが良好で満足度が高い B: 参加者からのフィードバックは肯定的だが、いくつかの改善が必要な点がある C: 参加者からのフィードバックが否定的で満足度が低い	勝山高校説明会で部活動体験を実施するよう準備を進めている。来年度新設される予定のダンス同好会の体験もできるよう工夫した。	B	10月26日(土)に勝山高校説明会を実施した。例年行っている勝山高校の紹介に加えて、来年度から新設予定のダンス部を含めた部活動体験を行い、好評を得ることができた。参加者は、81名。 参加した中学生・保護者のアンケートでは「説明会を通して、勝山高校へ入学したい(させたい)」という気持ちが大きくなったか」という質問に対し、「非常に大きくなった」または「大きくなった」と回答した割合が、中学生は94.8%、保護者は94.7%であった。 志願者数については、厳しい状況が続いているが、津山市内や新見市内からの参加者もあり、秋の時点で進路に迷っている中学生に対して、効果的にアプローチできた。来年度に向けては、1・2年生の参加者を増やす工夫を考えたい。	A
	生徒課	○地域・ボランティア活動に年間100名以上参加 生徒が地域活動、ボランティア活動へ積極的に参加できるよう広報活動を行う。 ○部活動途中退部10名以下 部活動活性化の観点から、途中退部をする生徒を減少させることを目指す。 ○生徒会を中心とした、校内ルールの励行 生徒会からの呼びかけを中心に、生徒が自ら校内ルールを守ることで、落ち着いた授業や学校生活が送れることを目指す。	・地域活動・ボランティア参加数が昨年より上回る。学校評価の12の項目で保護者評価(3.1)生徒評価(3.6)が昨年以上。 ・部活動途中退部10名以下。 ・学校評価の7の項目で教職員評価(2.8)保護者評価(3.1)生徒評価(3.5)以上。	○年度当初から9月13日までの、ボランティア参加総数は97名であり、年間100名以上は超えるペースである。 ○年度当初から9月20日までの、部活動途中退部の生徒数は5名であり、年間10名以下の目標に到達するためにも、顧問の先生に日頃から部員の様子をよく見てもらうように呼びかけを継続して行っていく。また、困ったときに他の顧問や生徒課に相談しやすい体制を整えていく。 ○校内ルールの励行のために、意見交換会や意見箱の設置を行った。また、鼓山祭体育の部において、スマホ利用に関する啓発動画を発信したところ、体育の部におけるスマホ関係での減点が0人であった。年度末に向けても、生徒会を中心に呼びかけや様々な取り組みを継続していく。	B	○年間を通じて(1月まで)、ボランティア参加総数は112名であり、昨年度の94名を上回った。また、学校評価アンケートの目標としていた数値も、達成基準を満たした。 ○年間を通じて(1月まで)、部活動途中退部の生徒数は7名であり、達成基準を満たした。しかし、学校評価アンケートを見ると、部活動に満足できていない部分も見られることから、生徒課として今後もよりよい体制を整えていきたい。 ○生徒会が担当教員と協議しながら、意欲的・積極的に年間を通じて活動できた。スマートフォンの使用ルールについても、改めて全校生徒の意見を募り、よりよいルール作りに努めた。また、学校評価アンケートの目標としていた数値も、達成基準を満たした。	A
	進路課	○夢現プロジェクトの充実 ・1年次では校外学習や地域での活動を通して、幅広い分野に触れるとともに協働して学ぶ機会を持たせる。2年次では地域活動等への積極的な参加を促すとともに、課題研究を深めさせることで、思考力・判断力・表現力を養う。3年次では、学んだことを進路決定につなげていくための支援を行う。 ・朝読書の奨励、新聞(NIE)の活用により社会問題に対する関心を深め、思考力・判断力・表現力を養う機会とする。	・夢現プロジェクト実施アンケートで「研究内容が自分の進路研究に役立った」という回答の割合が7割以上	○各学年の総合的な探究の時間の主な活動は以下の通り。 ・1年では、1学期に6コースに分かれて校外の研修を行った。2学期より分野別探究活動を行っている。 ・2年では、課題研究に取り組んでいる。 ・3年では、生徒の進路実現に向けての支援を行っている。 ○朝読書やNIEタイムの取り組みを通じ、社会問題等に対して生徒が興味を持つことを目標に、取り組みを継続している。	A	○各学年の総合的な探究の時間の主な活動は以下の通り。 ・1・2年では、分野別探究活動に取り組んだ。1月に文化センターにて、近隣の中学生を招いての発表会を行った。アンケートの結果では、「研究内容が進路研究に役立った」という回答が93.6%であった。 ・3年では、生徒の進路実現に向けての支援を行っている。 ○朝読書やNIEタイムの取り組みは継続中。	A
	厚生課	○健康教育・安全教育に関する講演会等の実施 ・家庭警察署や真庭保健所、真庭市消防署等地域との連携を図る。 ・薬物乱用防止教室、自殺予防教室、性教育講演会、がん教育講演会、防災訓練等を開催する。 ・ほけんだより、防災新聞を発行することによって啓発活動を行う。 ・健康づくりに関する正しい知識を身につけ、自分の心と生命を大切にすることを意識した生徒を育成することを目指す。	・アンケートにより薬物乱用防止教室、自殺予防教室、がん教育講演会においては、「自分を大切にしよう」という意識を持った生徒が90%以上 ・防災訓練においては、「自分の生命を守る行動ができる」という意識を持った生徒が85%以上	・1年次生対象の「自殺予防教室」アンケート結果 「様々な人生のリスクやストレスへの対処法として参考になった」96.2%、 「自分身を大切にしようと思った」90.5% 生徒の自分自身を大切にしようという意識を持つ生徒の割合は9割を超えている。 ・「ほけんだより」9月現在No.5、「心の切り替え方」「校内AED」「熱中症予防」など 「ひより」No.3、「カウンセリングの案内」「外部相談機関の案内」などそれぞれ時宜にかなう通信の発行ができた。	B	◆講演会等の実施 ・1年次生対象の「自殺予防教室」アンケート結果 「様々な人生のリスクやストレスへの対処法として参考になった」96.2%、 「自分身を大切にしようと思った」90.5% →生徒の自分自身を大切にしようという意識を持つ生徒の割合は90%以上 ・3年次生対象がん教育講演会アンケート結果 →「自分を大切にしよう」という意識を持った生徒が90%以上 ◆新聞による啓発活動:それぞれ時宜にかなう通信の発行ができた。 【12未現在】 ・「ほけんだより」No.7、「心の切り替え方」「校内AED」「熱中症予防」など ・「ひより」No.4、「カウンセリングの案内」「外部相談機関の案内」など ・「防災新聞」No.5「台風」「防災」など	A